

超臨界流体部会 臨時幹事会

日時 平成 25 年 8 月 1 日(木)

17:00～18:00

場所 クロスウエーブ 船橋

審議事項

1. 秋季大会 シンポジウム 学生賞について
2. 代議員の推薦について

報告事項

1. 部会 C T からの報告事項

お知らせ

1. 超臨界流体に関する国際ミニシンポジウム 2013

審議事項

1. 秋季大会 シンポジウム 学生賞

2013年5月28日

化学工学会第44回秋季大会オーガナイザー

佐藤 善之, 佐々木 満, 堀川 愛晃, 相澤 崇史

超臨界流体部会 第45回化学工学会秋季大会 学生賞審査基準

① 審査項目

審査の対象と内容:

主眼: 審査は, 研究内容ではなく, 「プレゼンテーション技術」ならびに「発表者の研究に対する理解度と貢献度」の評価で行う.

学生賞の審査対象と内容・配点は, 次のとおりとする.

1) プレゼンテーション技術(10点)

説明は論理的に構成され, 聴衆の理解を助けるようになされているか.

スライドは, 説明を適切に補助し, 聴衆の理解を助けるように作られているか.

2) 発表者の研究に対する理解度と貢献度(20点)

本審査項目の評価は, 発表だけでなく質疑応答の際の質問への回答も参考にする.

2-1) 発表者が自分の研究目的を理解し, その目的に対し発表者の考えに基づいた研究実施がされているか.

2-2) 結果の解釈と考察は合理的か.

② 審査方法

a) 審査員は, オーガナイザーが協議の上指名する.

b) 学生賞にエントリーした学生以外が登壇した場合は, 審査対象としない.

c) 1件の発表は, 原則3名の審査員で審査するものとする.

d) 「審査項目」の得点を合計し, 審査員の人数で割ることで, 「審査員1人あたりの平均得点」を計算する.

「審査員1人あたりの平均得点」が多い順に所定人数総発表件数の上位20%程度の受賞者を選ぶ.

e) 小数点以下までの同点者が出た場合には, 部会長およびオーガナイザーが合議し, 受賞者を選ぶものとする. この際の基準として, 「2) 発表者の研究に対する理解度と貢献度」の点数が高い者を上位とする. この項目でも同点の場合は, 「2-1) の発表者が自分の研究目的を理解し, その目的に対し発表者の考えに基づいた研究実施がされているか. 」の点数が高い者を上位とする.

以上

第45回秋季大会 超臨界流体部会シンポジウム プログラム

9月16日(月) S-14 亜臨界・超臨界流体の高度利用技術の新展開

講演#	開始時	受理	題目・研究者	歴長
Q103	9:40	814	水中ナノバルス放電におけるアラニルアラニンの反応経路及び反応機構 (熊大院自然) ○(学)坂井 夕華・(学)柳 崇 篤史・(熊大パルスパワー研)(正)佐々木 満・(名大院工)(正)後藤 元信・(広修道大)(正)川村 邦夫	田口実 福里隆一
Q104	10:00	759	超臨界二酸化炭素中でのポリ乳酸の合成 (静大院工) ○(学)澤田 憲一・(静大工)古橋 佑真・(静大院工)(正)岡島 いづみ・(静大院)(正)佐古 猛	
Q105	10:20	739	超臨界二酸化炭素と疎水性多孔質担体を用いたリパーゼによる脂質改質の高収率反応条件 (日大院生物資源) ○(学)納谷 昌和・(正)陶 慧・(正)今井 正直	
Q106	10:40	887	超臨界二酸化炭素を用いた植物油の抽出と溶解度からの考察 (熊大院自/名大院工) ○(学)富田 果林・(名大院工)(正)シティ マーム(正)神田 英輝・(熊大院自)(正)キタイン アルマンド・(正)佐々木 満・(名大院工)(正)後藤 元信(正)Wahyudiono・(SCFテクノ)(正)福里 隆一・(名大院)	
Q107	11:00	876	超臨界二酸化炭素-向流接触法によるリモネンの分離 (熊大院自) ○(学)安本 昇平・(正)Quitain A. T.・(熊大パルスパワー研)(正)佐々木 満・(アスキー)(正)岩井 秀雄・(正)田中 雅裕・ 星野 宗弘	
Q108	11:20	681	混合助溶媒添加による笹抗酸化物質の超臨界CO2抽出 (金沢大院(自)) ○(海)Zulkafli Z D・ 宮下 郁恵・(金沢大理工)(正)田村 和弘	
Q109	11:40	631	亜臨界DMEを用いた藻類からのカロテノイドの湿潤抽出 (名大院工) ○(学)加茂 佑一・ 新谷 修平・(正)Machmudah Siti・(正)Diono ahyu・(名大院工/JSTさきがけ)(正)神田 英輝・(名大院工)(正)後藤 元信	
Q113	13:00	78	[招待講演] メタボロミクスにおける超臨界流体テクノロジーの可能性 (阪大院工・生命先端) ○馬場 健史	堀川愛晃
Q115	13:40	567	アンモニアの超臨界水酸化反応におけるアルコール添加効果の速度論的検討 (東大院新領域) ○(学)下田 絵里子・(産総研コンパクト)(正)藤井 達也・(東大環安本)(正)林 瑠美子・(東大院新領域)(正)大島 義人	神田英輝 川尻 聡
Q116	14:00	824	熱水を用いたセルロースの糖化における希薄酸添加の効果 (中央大理工) ○(学)平島 健吾・(学)小澤 慎吾・(正)田口 実・(正)船造 俊孝	
Q117	14:20	633	亜臨界水+酸触媒による大型藻類からのグルコース生成 (静大院工) ○(学)鳥井 昭吾・(正)岡島 いづみ・(正)佐古 猛	
Q118	14:40	678	亜臨界水前処理+同時糖化発酵を用いるペーパーラジからのバイオエタノール生成 (静大院工) ○(学)名内 一貴・(静大工) 児玉 優太・(静大院工)(正)岡島 いづみ・(正)佐古 猛	
Q119	15:00	792	パブル混合熱水によるセルロース糖化前処理技術の開発 (津山高専) ○(学)福見 真也・ 渡部 晃輝・(正)山口 大造	
Q120	15:20	578	超臨界・亜臨界流体を用いたマリンバイオマスの油化 (静大院工) ○(学)野村 昌平・(正)佐古 猛・(正)岡島 いづみ	林 瑠美子 鈴木章悟
Q121	15:40	669	超臨界流体を用いるアラミド繊維強化プラスチックのリサイクル (静大院工) ○(学)宇石 翔吾・(正)岡島 いづみ・ 島村 佳伸・(正)佐古 猛	
Q122	16:00	596	メチルアミン水溶液を用いたポリカーボネート製品の水熱解重合 (中央大理工) ○(学)大下 春菜・(正)田口 実・(正)船造 俊孝	
Q123	16:20	590	塩基性熱水による臭素化難燃剤の脱臭素化 (中央大理工) ○(学)池田 大輔・ 伊藤 明植・(正)田口 実・(正)船造 俊孝	
Q124	16:40	284	超臨界アルゴン/水溶液界面におけるパルスアーク放電プラズマの生成および反応への応用 (名大院工) ○(学)林 祐衣・(正)ワーユ ディオノ・(正)シティ マーム(正)神田 英輝・(正)後藤 元信	
125	17:00		R会場にて学生賞表彰式	

講演#	開始時	受理	題目・研究者	歴長
Q202	9:20	31	[招待講演] 超臨界流体プロセスの太陽電池、リチウムイオン電池先端材料合成への応用 (東北大多元研) ○(正)本間 格	佐々木満
Q204	10:00	198	超臨界流体セレン化・硫黄法によるGZTS系太陽電池用化合物半導体薄膜の作製 (東北大多元研) ○(学)中安 祐太・(正)皆居 高明・(物材研)角谷 正友・(東北大多元研)(正)本間 格	渡邊 満洋 木原伸一
Q205	10:20	820	超臨界水熱合成によるペロブスカイト型複合酸化物ナノ粒子の合成と生成機構 (東大院新領域) ○(学)横 哲・(正)大島 義人	
Q206	10:40	51	超臨界溶体急速膨張法を利用したルプレン薄膜の創製メカニズムの解明と薄膜設計技術 (信州大院理工) ○(学)仲川 洋平・(学)高橋 佑汰・(信州大院総工)(学)藤井 竜也・(信州大工)(正)内田 博久	
Q208	11:20	998	超臨界溶体急速膨張(RESS)法による有機半導体薄膜創製に対する基板温度の影響 (信州大院理工) ○(学)高橋 佑汰・(学)仲川 洋平・(信州大院総工)(学)藤井 竜也・(信州大工)(正)内田 博久	
Q209	11:40	471	RESS-SC法によるテオフィリンのナノ粒子創製に対する(-)-ボルネオールの固体共溶媒効果の解明 (信州大院理工) ○(学)西島 正道・(信州大院工)(学)出本 公平・(東工大院理工)(学)坂部 淳一・(正)下山 裕介・(信州大工)(正)内田 博久	
Q213	13:00	475	超臨界溶体急速膨張(RESS)法を用いた薬物のナノ粒子創製における結晶多形現象 (信州大院理工) ○(学)近藤 大介・(信州大院工)(学)出本 公平・(信州大院理工)(学)西島 正道・(学)篠塚 大地・(信州大工)(学)渡邊 航平・(東工大院理工)(学)坂部 淳一・(正)下山 裕介・(信州大工)(正)内田 博久	佐々木満 松山 清
Q214	13:20	472	超臨界溶体急速膨張(RESS)法による薬物のナノ粒子設計技術の汎用性検討 (信州大院理工) ○(学)篠塚 大地・(信州大院工)(学)出本 公平・(信州大院理工)(学)近藤 大介・(学)西島 正道・(学)佐野 恭平・(東工大院理工)(学)坂部 淳一・(正)下山 裕介・(信州大工)(正)内田 博久	
Q215	13:40	612	ABS素材の環境に優しい無電解めっき法の開発 (京大工) ○(学)Tengsuwan Siwach・(正)大嶋 正裕・(日立マクセル) 遊佐 敦	
Q216	14:00	64	超臨界二酸化炭素と水を用いた綿繊維内部への機能剤注入 (九大工) ○(学)鮫島 翔・(丸三)(正)片山 滋雄・(九大工)(正)米澤 節子・(正)岩井 芳夫	
Q217	14:20	367	超臨界溶媒含浸法による眼科ドラッグデリバリーシステム作製における水添加の影響 (東工大院理工) ○(学)横崎 祐太・(学)坂部 淳一・(正)下山 裕介	
Q218	14:40	810	超臨界CO2を用いた噴霧法によるポリマー複合粒子の作成 (広大院工) ○尾崎 順貞・(学)大野 翔太郎・(正)春木 将司・(正)木原 伸一・(正)滝島 繁樹	
Q219	15:00	641	ポリマーの微細発泡における試料物性と発泡構造の関係 (広大院工) ○(学)菅長 宏之・(正)春木 将司・(正)木原 伸一・(正)滝島 繁樹	

9月18日(水)	S-14	亜臨界・超臨界流体の高度利用技術の新展開	
	9:20	学生賞発表(入口に掲示)	
Q303	9:40	24 [招待講演] 超臨界溶媒利用プロセス研究開発事例と展望 (名大工) ○(正)堀添 浩俊	佐藤善之
		24	
Q305	10:20	495 超臨界二酸化炭素中におけるRe触媒による二酸化炭素の光還元 (産総研) ○(正)川波 肇・(ブルックヘブン国立研) Grills David・(産総研) (正)石坂 孝之・(正)Chatterjee Maya	内田博久 堀川愛晃
Q306	10:40	846 高圧二酸化炭素中での超音波キャピテーションを利用した繊維の表面改質 (久留米高専) ○(正)松山 清・田中 慧・奥山 哲也	
Q307	11:00	649 Heterogeneously Catalyzed Microwave-Solvothermal Synthesis of bioETBE (熊大院自) ○(正)Quitain Armando・(熊大工) (正)山下 晃生・(熊大院自) (正)佐々木 満	
Q308	11:20	609 高温高圧水中でのキチン2糖の変換反応 (一関高専) ○(正)長田 光正・(学)菊田 和志・(正)戸谷 一英・(福島高専) 尾形 慎・(静大農) 碓水 泰市	
Q309	11:40	235 クロロフェノールの水熱酸化分解のフェントン型反応による促進 (阪市大院工) ○(正)米谷 紀詞・高見 玲奈・(学)本田 弘樹・(学)中尾 恭平	
	12:00	学生賞表彰式	

9月16日(月) S-13 亜臨界・超臨界流体を含む系の物性研究の最前線

講演#	開始時	受理	題目・研究者	座長
R104	10:00	113	Chemoselective hydrogenation of chloronitrobenzene in supercritical carbon dioxide using Pd supported or heteroatom substituted MCM-41 (AIST) ○(正)Chatterjee M.・(正)Kawanami H.・(正)Ishizaka T.	児玉大輔 孔昌一
R105	10:20	175	ナノ空隙内における臨界点降下 (名大院工) ○(正)神田 英輝・(正)後藤 元信	
R106	10:40	917	二成分混合流体の臨界点近傍における過剰エンタルピーの特異的挙動の予測 II. 臨界軌跡と過剰エンタルピーを得る状態のp-T面上での位置関係 (名城大農) ○(学)塚本 浩貴・(学)方 国松・(正)前林 正弘・(正)大場 正春	
R107	11:00	1004	臨界点近傍でのベンゼン+シクロヘキサン系の過剰エンタルピー II (名城大農) ○(学)方 国松・(学)塚本 浩貴・(正)前林 正弘・(正)大場 正春	
R108	11:20	111	[招待講演] 超臨界流体中での電荷移動反応とプロトン移動反応 (同志社大理工) ○木村 佳文	相澤 崇史
	11:40	111		
R113	13:00	642	ヘキサン+多分散ポリエチレン系の高圧相平衡 (広大院工) ○(学)藤川 翔平・(正)中西 邦夫・(正)春木 将司・(正)木原 伸一・(正)滝島 繁樹	竹林良浩 相澤 崇史
R114	13:20	383	エチレン/酢酸ビニル共重合体(EVA)製造に関する4成分系相平衡のシミュレーション (東北大院工) ○(学)中村 崇晃・(学)五十嵐 礼子・(学)村井 瑞季・(正)佐藤 善之・(正)猪股 宏	
R115	13:40	1007	紫外可視分光法を用いた飽和溶解圧力探索法による超臨界CO ₂ 中の有機物の溶解度測定 (信州大院理工) ○(学)高原 梢江・(信州大工) (学)内田 博久	
R116	14:00	477	分子情報からの配位数予測を用いた状態方程式による超臨界二酸化炭素への溶解度の推算 (東工大院理工) ○(学)坂部 淳一・(正)下山 裕介・(信州大工) (正)内田 博久	
R117	14:20	371	超臨界二酸化炭素中のゾルゲル法によるナノ粒子含有膜の作製における気液平衡の把握 (東工大院理工) ○(学)瀧野 剛・(正)下山 裕介	
R118	14:40	550	天然物含有有機性成分の超臨界流体精留のモデル化に向けた気液平衡の測定 (東北大院工) ○(学)前田 雄也・(正)大田 昌樹・(正)佐藤 善之・瀧戸 次郎・大泉 康・(正)猪股 宏	佐藤善之 下山裕介
R119	15:00	801	CO ₂ -メタノール混合流体中における有機化合物の無限希釈拡散係数 (中央大理工) ○(学)杉原 智人・(正)田口 実・(正)船造 俊孝	
R120	15:20	925	超臨界及び液体状態中におけるトリス(アセチルアセトナト)アルミニウムの拡散係数の測定と相関 (静大院工) ○(正)孔 昌一・(学)渡辺 昂・(中央大理工) (正)船造 俊孝・(佐賀大院工) (正)梅木 辰也	
R121	15:40	112	二酸化炭素膨張樹脂溶解液の粘度の測定 (産総研コンパクト化学) ○(正)相澤 崇史・(正)金久保 光央・(正)牧野 真至・(正)花岡 隆昌	
R122	16:00	58	二酸化炭素加圧による融点降下の熱力学的解析 (産総研ナノシステム) ○(正)竹林 良浩・(正)陶 究・(正)伯田 幸也・(正)古屋 武・(正)依田 智	
			学生賞審査につき、オーガナイザーを除き一旦退席していただく。そしてオーガナイザーが集計、受賞者の決定、表彰状を準備する。副賞については後日指導教官宛に郵送。また部会集会への招待は今回はなし。	
125	17:00		学生賞表彰式	
		審査対象		

座長

化学工学会の大会本部運営委員会より、大会における議論の一層の活性化を図るため座長を原則として産・学から各1名の2名体制とするよう要請があった。このため、産側の方に座長をお願いしたが内諾を得られず、大半を学・学あるいは学・官をお願いすることとなった。

学生賞

審査対象: S-13: 9件, S-14: 30件、総計39件、このため、1日では審査できずに2日目にも審査を行う。

授賞式 : S-13に関してはS-14の講演終了を待って表彰式を行う。(R会場)

S-14に関しては大会3日目の講演終了後12:00よりQ会場で表彰式を行う。

S-14の受賞者発表は3日目の朝、Q会場に掲示。

部会集会招待 以上のような事情により、今回受賞者の招待は無しとする。

報告事項

■部会CTからの報告事項

【報告事項】

- 1) 平成25年度部会・部会CTの活動方針
- 2) 部会活動功労賞(部会CT賞)の報告

■その他委員会等からの報告事項のうち部会に関するもの

- ①来年度の秋季大会(第46回)開催時期/場所が
2014.9.17~19、九州大学(伊都キャンパス)
に正式決定。
- ②男女共同参画委員会の本年度活動計画として、
部会長インタビュー(仮称)を検討中。
- ③平成26・27年度代議員選出について
総数237名
本部・部会推薦、支部推薦の順で調整
各部会への配分数を若干変更(前回に比べ1部会増えているため)

⇒後日、部会推薦について事務局よりご連絡申し上げます。
- ④第78年会@大阪大学の収益の配分について
「本部大会収支差額取扱規定」に基づき分配
(43,100円/シンポジウム;共催の場合は均等割り)

お知らせ

平成 25 年 7 月 30 日

超臨界流体に関する国際ミニシンポジウム 2013 のご案内

主催：繊維学会超臨界流体研究委員会
協賛：日本学術振興会繊維・高分子機能加工
第 120 委員会
化学工学会超臨界流体部会

ISSF・Fiber2008 から 5 年の歳月を経て、繊維・高分子関連分野における超臨界流体技術の最新の応用をご紹介します国際ミニシンポジウムを企画いたしました。昨今、大手スポーツウェアメーカーが契約をしたことで話題になっています、オランダの DyeCoo 社の CEO による超臨界染色の講演をはじめ、海外からの招待講演 4 件を含む超臨界流体の最先端研究について 7 件の講演を予定しています。ふるってご参加ください。

日 時：平成 25 年 9 月 5 日(木)・6 日(金)
(平成 25 年度繊維学会秋季研究発表会期間)

会 場：豊田工業大学
(平成 25 年度繊維学会秋季研究発表会会場)
〒468-8511 名古屋市天白区久方二丁目 12 番地 1
<http://www.toyota-ti.ac.jp/access/index.html>

プログラム：

1 日目：招待講演（8 号棟 3F 大講義室）および懇親会（オ・バルキーニョ）

1)	9:30～10:20	Industrialization of Supercritical Carbon Dioxide Dyeing Technology on Wool fiber Prof. Zheng Laijiu , Dalian polytechnic university, China
2)	10:20～11:10	Fabrication of Hollow Fiber by Electrospinning under Pressurized Carbon Dioxide Prof. Motonobu Goto , Nagoya University, Japan
3)	11:10～12:00	Integration of Supercritical Fluid Technologies: Chemical Reaction and Particle Formation Prof. Youn-Woo Lee , Seoul National University, Korea
昼 食		
13:00～14:00 繊維学会特別講演		
4)	14:30～15:20	Water-free Dyeing of Textiles from Lab to Industrial Scale Dr. Geert Woerlee , CEO of DyeCoo and FeyeCon
5)	15:20～16:10	Carbon Dioxide Processing for Polymerization and Nanocomposite Formation Prof. Aryn S Teja , Georgia Institute of Technology, USA
6)	16:10～17:00	Material Processing Using Supercritical CO ₂ Prof. Idzumi Okajima , Shizuoka University, Japan
7)	17:00～17:50	Studies on Textile Dyeing and Finishing in Supercritical CO ₂ Prof. Satoko Okubayashi , Kyoto Institute of Technology, Japan
18:30～20:30 懇親会		

2 日目：ポスター発表（14:10～15:30 1 号棟 2 F 本館ホール）

参加費：

	事前登録 (8月31日まで)	当日登録
主催・協賛委員部会の会員	15,000 円	20,000 円
上記以外の一般	20,000 円	25,000 円
学生	5,000 円	7,000 円
懇親会費	7,000 円	8,000 円

但し、平成 25 年度繊維学会秋季研究発表会参加者のうち、学生は無料、それ以外は 5,000 円で参加可能です。当日登録のみ受け付けます。

銀行振込： 福井銀行文京支店 普通預金口座 1135037
(加入者名) 繊維学会超臨界流体研究会

ポスター発表申込方法：8月19日までに、英語で①題目、②要旨(100~200words)、③発表者氏名、④発表者所属、⑤連絡先(所属・氏名・電話番号・電子メールアドレス)を、075-724-7337 にファックスするか、okubay@kit.ac.jp に送信下さい。

参加申込方法：事前登録は、8月26日までに所属・氏名・電話番号・電子メールアドレスを okubay@kit.ac.jp までお送りいただき、参加費を8月31日までにお振込ください。当日登録も受け付けます。

実行委員会：

委員長：奥林 里子 (京都工芸繊維大学)

委員：濱田 州博(信州大学), 阿尻 雅文(東北大学), 堀 照夫(福井大学), 後藤 元信(名古屋大学), 杉浦 和明(京都市産業技術研究所), 斉藤 拓(東京農工大学), 廣垣 和正(福井大学)